

# 感動通信

National Committee of Dairy Farms for Schools

Vol. 71  
JULY 2023



中国四国酪農大学校の  
新たな挑戦

人材育成と酪農教育の普及を目指す

感動通信  
Vol. 71 JULY 2023

企画発行・一般社団法人中央酪農会議  
酪農教育ファーム推進委員会

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-6-1 堀内ビルディング4F  
[TEL] 03-6688-9841 [FAX] 03-6681-5295 [URL] <https://www.dairy.co.jp/edf/>

Information

## 令和5年度 酪農教育ファーム認証牧場と ファシリテーター募集を開始しました！

### 認証までの流れ

#### 場 酪農教育ファーム認証牧場の認証

- 1 「認証牧場・認証申請書」を指定団体に提出(10月頃まで)
- 2 指定団体による現地審査(11月頃まで)
- 3 「認証審査委員会(中央酪農会議)」による書類審査(12月頃)
- 4 「認証」  
ファシリテーター不在の場合は、ファシリテーター認証を取得後、「認証」

#### 人 酪農教育ファームファシリテーターの認証

- 1 「ファシリテーター・認証申請書」を指定団体に提出(11月頃まで)
- 2 「認証審査委員会(中央酪農会議)」による書類審査(12月頃)
- 3 認められれば「仮認証」
- 4 認証研修会を受講  
※日程等詳細は下記をご覧ください。
- 5 「認証」

### 認証研修会の詳細

ファシリテーターの認証には、「認証研修会」の受講が義務づけられています。  
令和5年度認証研修会は、令和6年1～3月頃に開催予定です。

詳細や申込方法については決定次第、ご案内いたします。

※認証研修会の受講には、「認証審査委員会」において「仮認証」を取得している必要があります。



まずは、所属の指定団体へお問い合わせください（詳細や募集期間は、指定団体によって異なります）

指定団体(=酪農教育ファーム地域推進委員会事務局) ▶ <https://www.dairy.co.jp/edf/suishinjimu.htm>

### 認証の詳細及び申請書はこちら

酪農教育ファーム認証規程 ▶ <https://www.dairy.co.jp/edf/ninsyoukitei.htm>  
酪農教育ファーム認証規程等に関するQ&A ▶ <https://www.dairy.co.jp/edf/makiba/index.html>



酪農教育ファーム活動にまつわる  
**お悩み・質問を大募集！**

立場を問わず、

酪農教育ファーム活動を  
実践するにあたっての  
「お悩み」をお寄せください。

- 酪農教育を学校の授業に取り入れてみたいけれど、どうしたらよいかわからない.....
- 体験に来た子どもから「なぜ牛は白黒なの?」と聞かれて、答えられなかった。みんなならどう答える?

などなど、どんなことでも構いません。お寄せいただいた「お悩み」は、今後、誌面で取り上げていく予定です！

お悩みは  
こちらから！



<https://onL.sc/HzfYFfw>  
アンケートフォーム内に  
記入欄がございます

## Contents

p. 2  
**face to face**  
Vol.71プレゼント企画

p. 4 – p. 7  
**COVER STORY**  
人材育成と酪農教育の波及を目指す  
中国四国酪農大学校の新たな挑戦

p. 8 – p. 9  
日本酪農教育ファーム研究会の取り組み  
小学校全学年別の  
イキイキ酪農体験授業

p. 10  
酪農教育ファーム活動における安全・衛生・防疫対策  
韓国での口蹄疫発生に伴い、  
牧場の衛生管理徹底周知

p. 11  
**Information**  
酪農教育ファームについて、よくある質問

### 酪農教育ファーム活動とは？

「酪農を通して食やしごと、いのちの学びを支援する」ことを目的に、「認証」を受けた酪農家等が、主に教育現場と連携しながら、牧場や学校等で行う教育活動です。

認証を受けて活動を行う「場(牧場等)」を「酪農教育ファーム認証牧場」、認証を受けて活動を行う「人」を「酪農教育ファームファシリテーター」といいます。2023年3月末現在、全国で248の牧場等と515人のファシリテーターが認証を受けて活動を行っています。

詳しくは酪農教育ファームのホームページをご覧下さい。  
[www.dairy.co.jp/edf/](http://www.dairy.co.jp/edf/)

酪農教育ファーム



## Vol.71 プレゼント企画

素材の良さをそのまま活かして味わい深い、まろやかで食べやすい風味に仕上げただけでなく、  
包材資材に至るまでこだわり抜いた、酪農への“想い”を込めた新ブランド  
「Zenraku Original」は、あらゆる面で“オリジナル”なプロセスチーズです。  
また、全酪乳製品の中でも特に人気が多く、国産乳原料100%にこだわった  
「酪農家」シリーズのバターとチーズを加えた全酪乳製品8点セットを、  
今号のアンケートにお答えいただいた方の中から抽選で10名様にプレゼントいたします。



10名様に  
プレゼント！

- セット内容**
- Zenraku Originalとろけるスライスチーズ126g×1個
  - Zenraku Originalスライスチーズ126g×1個
  - Zenraku Originalスマーキーチーズ120g×1個
  - Zenraku Original6Pチーズ108g×1個
  - 全酪ゴーダ125g×1個
  - 全酪パウダーチーズ70g×1個
  - 酪農家ぬるチーズ80g×1個
  - 酪農家バター(加塩)200g×1個



全酪連自慢の  
全酪乳製品8点セット

今回の感動通信について、  
ぜひご意見をお聞かせください。  
今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。

※回答時間の目安は2分程度です。  
※お預かりしたお客様の個人情報はプレゼントの送付のみに利用致します。

回答はこちらから  
アンケートフォーム内に  
記入欄がございます  
<https://onl.sc/HzfYFfw>



締め切り  
2023年  
8/15(火)



## 酪農への理解を深めるため 小中学生の体験活動も充実

酪農という厳しい業界なので、農家の後継者の子たちばかりが入学するのかと思いや、「意外と非農家の子が多いんです。今年の新入生は27人中9人が畜産家出身でしたが、そのほかは非農家で、入学する生徒はおおむね全体の3分の1です」。その理由の多くが子どもの頃に参加した体験活動だといいます。

飼料タンク前で説明を聞く酪農体験に来た子どもたち

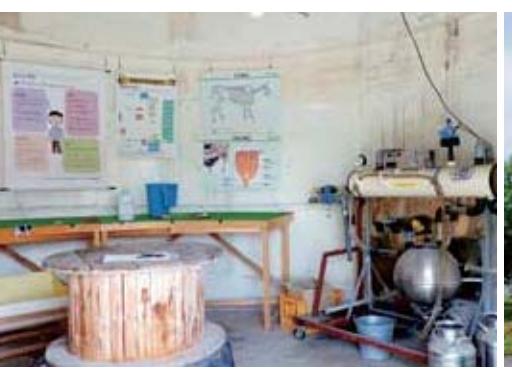
「小さい頃、親と一緒に牧場見学に来ていろんな体験をしたこと興味をもち、それがきっかけで酪農の道を志した」という学生がたくさんいますよ」と、菱川校長。そういう意味で各地の牧場で行っている牧場見学や酪農体験は、酪農や畜産業の拡充に一役買っているといえるでしょう。酪農学校も以前から小中学校を中心に行なってきました。ただし、家畜伝染病をはじめとする問題で、こうした体験活動には制限がついてきているのが現状です。

とくにコロナ禍の際には、各牧場とも体験活動が激減しました。生きた牛を使って行う搾乳体験は人気が高いのですが、できなくなつた牧場が多く、蒜山では酪農大학교だけでした。「本校はコロナ禍でも、安全性や衛生面を充てんやしたいし、できれば学生たちにも参加させたいですね」と、次構想を描いています。

実させた上で搾乳体験を行つてきました。多い年では1000人、昨年は367人受け入れています」と、自信をみせる菱川校長。  
第1牧場には展示施設として利用している古いタワーサイロがあり、趣深い風景となっています。小中学校の体験学習では、牧場内の施設の中をファシリテーターの資格を持つ職員と一緒に歩きながら説明していきます。一度訪問してくれた学校は、多くがリピーターとなるそうです。毎年来てくれる特別支援学校もあり、この場合は細かい解説より牛とのふれあいを中心にして情操教育につなげています。

## キャリア教育と 職業教育の双方を担う

子どもたちへの体験学習のほど研修も進めているのは酪農大学の特徴のひとつです。菱川校長は「担い手育成だけではなく、酪農・乳業界全体に貢献していくたいのです」と、表情を引き締めます。



教育機関初となるHACCP認証を取得

## 認証牧場の取得は 酪農ネットワークの拡充になる

も研修を通して生乳のパックグラウンドを知り、商品に対する心構えや酪農の多様性を学んでいくのだそうです。



## 好奇心旺盛な小中学生とふれあい、 教える喜びとやりがいを感じます!



本校が認証牧場を取得したと同時に、ファシリテーターの資格を取得しました。もともと卒業生なのですが、母校に就職して牧場の職員となり体験学習の教育活動を行っていました。子どもたちの扱いには慣れて白羽の矢が立ったのでしょうか。酪農教育ファームファシリテーター認証研修会に参加し、講義やワークショップを受けて資格取得ができました。

学習は飽きさせないよう、ときにはクイズを交えて飼料やロールサilageを見せて、牛舎では搾乳牛や酪農について説明した上で搾乳やエサやり体験をしてもらいます。牛を見るのも初めての子が乳しぶり体験で歓喜の声を上げているのは可愛いですね。

児童全員からお礼の手紙が届いたこともあります。牛に触ってぬくもりを感じ、命を感じる温かさがあった、これから乳製品を食べるときは感謝して残さず食べたい、などの声が嬉しく、励みになりました。今後も教方など考え、みんなが楽しく学べるよう工夫していきたいですね。

平成29年には教育機関として全国初となる農場HACCPの認証も受けました。菱川校長は「今後は口ボットなどの先

は減少傾向がみられる酪農をもっと盛り上げるために、さまざまな酪農家の話を聞くのは大事なことです。先進的なシステムを取り組んでいる農家もあるでしょ、連携して牛乳や乳製品の消費拡大にもつなげたいですね」。



体験の前後ではしっかりと手洗い



バーラー前で説明を聞く子どもたち

も研修を通して生乳のパックグラウンドを知り、商品に対する心構えや酪農の多様性を学んでいくのだそうです。

これらの取り組みは教育施設としての責任の一環を具現化したものかもしれません。これから社会に出でいく若者と、すでに酪農を基礎として働く人たち双方に対する酪農教育がここにはあるようです。

平成29年には教育機関として全国初となる農場HACCPの認証も受けました。菱川校長は「今後は口ボットなどの先

は減少傾向がみられる酪農をもっと盛り上げるために、さまざまな酪農家の話を聞くのは大事なことです。先進的なシステムを取り組んでいる農家もあるでしょ、連携して牛乳や乳製品の消費拡大にもつなげたいですね」。

平成29年には教育機関として

認証も受けました。菱川校長は「今後は口ボットなどの先

は減少傾向がみられる酪農を

もっと盛り上げるために、さま

ざまな酪農家の話を聞くのは大

事なことです。先進的なシステム

を取り組んでいる農家もあるで

しょ、連携して牛乳や乳製品の消

費拡大にもつなげたいですね」。

平成29年には教育機関として

認証も受けました。菱川校長は「今後は口ボットなどの先

は減少傾向がみられる酪農を

もっと盛り上げるために、さま

ざまな酪農家の話を聞くのは大

事なことです。先進的なシステム

を取り組んでいる農家もあるで

しょ、連携して牛乳や乳製品の消

費拡大にもつなげたいですね」。

平成29年には教育機関として

認証も受けました。菱川校長は「今後は口ボットなどの先

は減少傾向がみられる酪農を

もっと盛り上げるために、さま

ざまな酪農家の話を聞くのは大

事なことです。先進的なシステム

を取り組んでいる農家もあるで

しょ、連携して牛乳や乳製品の消

費拡大にもつなげたいですね」。

平成29年には教育機関として

認証も受けました。菱川校長は「今後は口ボットなどの先

は減少傾向がみられる酪農を

もっと盛り上げるために、さま

ざまな酪農家の話を聞くのは大

事なことです。先進的なシステム

を取り組んでいる農家もあるで

しょ、連携して牛乳や乳製品の消

費拡大にもつなげたいですね」。

平成29年には教育機関として

認証も受けました。菱川校長は「今後は口ボットなどの先

は減少傾向がみられる酪農を

もっと盛り上げるために、さま

ざまな酪農家の話を聞くのは大

事なことです。先進的なシステム

を取り組んでいる農家もあるで

しょ、連携して牛乳や乳製品の消

費拡大にもつなげたいですね」。

平成29年には教育機関として

認証も受けました。菱川校長は「今後は口ボットなどの先

は減少傾向がみられる酪農を

もっと盛り上げるために、さま

ざまな酪農家の話を聞くのは大

事なことです。先進的なシステム

を取り組んでいる農家もあるで

しょ、連携して牛乳や乳製品の消

費拡大にもつなげたいですね」。

平成29年には教育機関として

認証も受けました。菱川校長は「今後は口ボットなどの先

は減少傾向がみられる酪農を

もっと盛り上げるために、さま

ざまな酪農家の話を聞くのは大

事なことです。先進的なシステム

を取り組んでいる農家もあるで

しょ、連携して牛乳や乳製品の消

費拡大にもつなげたいですね」。

平成29年には教育機関として

認証も受けました。菱川校長は「今後は口ボットなどの先

は減少傾向がみられる酪農を

もっと盛り上げるために、さま

ざまな酪農家の話を聞くのは大

事なことです。先進的なシステム

を取り組んでいる農家もあるで

しょ、連携して牛乳や乳製品の消

費拡大にもつなげたいですね」。

平成29年には教育機関として

認証も受けました。菱川校長は「今後は口ボットなどの先

は減少傾向がみられる酪農を

もっと盛り上げるために、さま

ざまな酪農家の話を聞くのは大

事なことです。先進的なシステム

を取り組んでいる農家もあるで

しょ、連携して牛乳や乳製品の消

費拡大にもつなげたいですね」。

平成29年には教育機関として

認証も受けました。菱川校長は「今後は口ボットなどの先

は減少傾向がみられる酪農を

もっと盛り上げるために、さま

ざまな酪農家の話を聞くのは大

事なことです。先進的なシステム

を取り組んでいる農家もあるで

しょ、連携して牛乳や乳製品の消

費拡大にもつなげたいですね」。

平成29年には教育機関として

認証も受けました。菱川校長は「今後は口ボットなどの先

は減少傾向がみられる酪農を

もっと盛り上げるために、さま

ざまな酪農家の話を聞くのは大

事なことです。先進的なシステム

を取り組んでいる農家もあるで

しょ、連携して牛乳や乳製品の消

費拡大にもつなげたいですね」。

平成29年には教育機関として

認証も受けました。菱川校長は「今後は口ボットなどの先

は減少傾向がみられる酪農を

もっと盛り上げるために、さま

ざまな酪農家の話を聞くのは大

事なことです。先進的なシステム

を取り組んでいる農家もあるで

しょ、連携して牛乳や乳製品の消

費拡大にもつなげたいですね」。

平成29年には教育機関として

認証も受けました。菱川校長は「今後は口ボットなどの先

は減少傾向がみられる酪農を

もっと盛り上げるために、さま

ざまな酪農家の話を聞くのは大

事なことです。先進的なシステム

を取り組んでいる農家もあるで

しょ、連携して牛乳や乳製品の消

費拡大にもつなげたいですね」。

平成29年には教育機関として

認証も受けました。菱川校長は「今後は口ボットなどの先

は減少傾向がみられる酪農を

もっと盛り上げるために、さま

ざまな酪農家の話を聞くのは大



はじめての子牛とのふれあい体験にドキドキ

**認証牧場である広瀬牧場と  
独自性の高い酪農教育を実践**

その前任校時代、タイミングよく帯広市で各学校の独自性を活かした取り組みをしようと予算が組まれたため、本格的に酪農教育に乗り出すことになりました。さっそく校区内にあった酪農教育ファーム認証牧場の「リバティヒル広瀬牧場」に相談すると、代表の廣瀬文彦氏が理解を示し協力してくれることに。もともと廣瀬氏は酪農教育に熱心でファシリテーターの資格も持っていますので、安心して一緒に酪農体験の学習プランを練り込んでいました。

その結果、1年生から6年生までの全児童が参加して、それぞれの年齢に合わせた酪農体験を得られるよう、画期的な教育プロ

グラムが仕上がありました。「お祭りやイベント的な体験授業で終わらせるのではなく、帯広市ならではの実体験を通して酪農とつながりを持たせたかった。実学として学ぶ酪農教育を重視したかったのです」と、高橋先生。

**子牛お泊り会に見る  
酪農体験学習の意義**

初めての酪農体験授業は、当時、高橋先生が勤務していた森の里小学校で行いました。メインは「子牛のお泊り会」で、牧場の子牛が三泊四日学校に泊まるというものです。まず1年生は子牛の歓迎会を行って実際に触るなどのふれあい体験を行いました。2年生は子牛とのふれあいと、酪農に用いるトラクターなどの農機具をモニターフォーマットした写生会。3年生の理科や社会の授業は、牧場主の廣瀬氏に乳牛の生態や酪農の仕組みについて話していました。

さらに、4年生は実際に牧場に連れて行き、見学や製作体験を行いました。5年生になるとキャラリア教育の観点から酪農に関わる獣医師や食品会社の工場、給食センターの栄養士、洋食レストランのシェフなどを呼んで仕事の話をしてもううほか、農業高校の先生には酪農で学ぶ学習内容を教わりました。6年生は家庭科の授業で、シェフと一緒に牛乳を使った調理実習を行うなどバラ

**日本酪農教育ファーム研究会の取り組み**

森の里小学校で行った体験学習の取り組みを帯広市内から十勝管内、やがて全国的に広げていきた科や社会の授業は、牧場主の廣瀬氏に乳牛の生態や酪農の仕組みについて話していました。

さらに、4年生は実際に牧場に連れて行き、見学や製作体験を行いました。5年生になるとキャラリア教育の観点から酪農に関わる獣医師や食品会社の工場、給食センターの栄養士、洋食レストランのシェフなどを呼んで仕事の話をしてもううほか、農業高校の先生には酪農で学ぶ学習内容を教わりました。6年生は家庭科の授業で、シェフと一緒に牛乳を使った調理実習を行うなどバラ

# 酪農教育ファームについて、よくある質問

Q

認証の仕組みを教えてください

A

認証には「場」と「人」、2つの要素があります。酪農教育ファーム推進委員会(事務局:(一社)中央酪農会議)が定めた認証規程に基づき、安全・衛生対策などの条件をクリアして認証を受けた牧場等を「認証牧場」、認証を受け情熱を持って酪農教育ファーム活動を行う人を「ファシリテーター」と言います。認証牧場は1人以上のファシリテーターを指定しなければなりませんが、酪農に専門的に従事していないなくても、条件を満たせばファシリテーターになることができます。なお、ファシリテーターは3年に1度「スキルアップ研修会」を受講すること等で、認証を更新できます。



Q

認証牧場には、どうしたらなれますか？

A

認証牧場の認証規程に基づき、主に安全で安心して活動が行えるように環境が整備されているかどうかを審査します。審査は年1回実施され、酪農教育ファーム地域推進委員会(事務局:各地域の指定生乳生産者団体)に書類を提出し、現地審査、書類審査をクリアすると、認証牧場として認証されます。

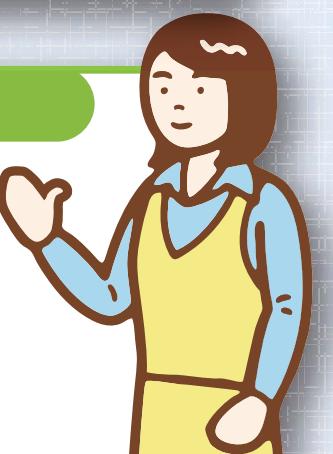


Q

ファシリテーターには、どうしたらなれますか？

A

ファシリテーター認証規程に基づき、情熱を持って酪農教育ファーム活動に取り組める人かどうかを審査します。酪農に専門的に従事していないなくても、酪農教育ファーム活動の経験が1年以上あり、他のファシリテーターの推薦を受ければ、申請をすることができます。酪農教育ファームファシリテーターは、酪農を通して、子どもたちなどの体験者自らが「食やしごと、いのちの大切さ」に気づき、学べるように働きかける活動を目指します。こちらも審査は年1回実施され、酪農教育ファーム地域推進委員会に書類を提出し、審査をクリア後、認証研修会を受講するとファシリテーターとして認証されます。



※ 書類は酪農教育ファームのホームページよりダウンロードしてください。

一般社団法人 中央酪農会議 酪農教育ファーム推進委員会

住所 〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-6-1 堀内ビルディング4F

TEL 03-6688-9841 FAX 03-6681-5295 URL <https://www.dairy.co.jp/edf/>

Facebook公式ページ <https://www.facebook.com/rakunoukyouikufarm>

酪農教育ファーム活動における  
安全・衛生・防疫対策

## 韓国での口蹄疫発生に伴い、牧場の衛生管理徹底周知

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが「5類感染症」に変更され、海外からの入国者も含めて人の動きが活発化しています。酪農教育ファーム活動についても徐々に再開されつつあり、特に7~9月は牧場体験が増えることが想定されます。

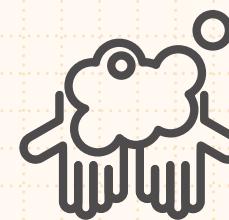
韓国では今年5月に4年ぶりに牛の口蹄疫の発生が確認されるなど、家畜防疫に関わるリスクは高まっています。

「入れない」「抜けない」「持ち出さない」という感染症防疫対策の基本を改めて確認しましょう。

体験者リストの作成

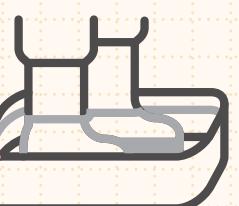


万一の場合に感染ルートを早期に特定するため、事前に体験者の氏名および連絡先のリストを作成しましょう。体験当日に他の畜産関係施設に立ち入った人や、過去1週間以内に海外から入国(帰国)した人は、衛生管理区域に立ち入らせないようにしましょう。



徹底した手洗い

体験者の全員が、体験の前後に必ず手洗いを行いましょう。石鹼をよく泡立てて、両手を20秒以上こすり洗いし、流水で流します。手拭きには使い捨てペーパータオルを使用し、水道の蛇口はペーパータオルで閉めます。手洗いは、必ずファシリテーターが見届けるようにしましょう。



靴底の消毒

乳牛エリアに入退場する際は、必ず踏み込み消毒槽や消毒マットで靴底の消毒を行いましょう。靴底が汚れている場合は、玄関マット等で汚れを落としてから消毒しましょう。ブーツカバーを利用する場合は、ブーツカバーを装着してから消毒を行います。靴底消毒は、必ずファシリテーターが見届けるようにしましょう。



搾乳体験時は手袋を

手洗いをしても微細な細菌は落としきれない場合があります。搾乳体験時には使い捨て手袋をすることが望ましいでしょう。手袋を使用する場合でも、体験前後の手洗いは必ず行いましょう。



立入禁止区域の表示

立入禁止区域についてはロープ等で区切り、誰にでも分かるように看板を設置しましょう。外国人旅行者等が間違って入らないよう、看板は日本語だけでなく、英語等の外国語でも表示するのが望ましいでしょう。